1. 大学院海洋生命科学研究科の概要

海洋生命科学部（2008年度に水産学部より名称変更）は1972年に設立以来、学部レベルでの水産増養殖および水産利用を対象とする教育・研究を行ってきた。この間、水産業をとりまく国内外の情勢は漁業専管水域の設定を機に大きく変化し、わが国水産業の質的変換が迫られるようになった。一方、人類共通の生物資源である海洋生物の有効利用がクローズアップされるなど、水産学の内容は多様化し、関連する科学技術も長足の進歩を遂げた。このような時代の進展に対応し、より高度の教育・研究を行い、深い学識と研究能力を備えた専門家を養成するために1976年4月、大学院水産学研究科修士課程が設置された。1978年4月には引き続き大学院水産学研究科博士後期課程が設置された。1996年度には在職のまま入学できるよう社会人に対して大学院の門戸を開いている。また、大学院教育をさらに充実するために、1998年度、株式会社海洋バイオテクノロジー研究所との連携大学院を発足させ、1客員研究室を開設した。さらに、2000年度には大学院における研究、教育の活性化を図るため、研究科の改組を行ない、 水産増殖学、環境生物学、応用生物化学専門分野からなる水産学研究科水圏生物科学専攻を設置するに至った。海洋バイオテクノロジー研究所との連携大学院は同研究所の閉鎖に伴ない2007年度をもって終了したが、2010年度からは海洋開発研究機構（JAMSTEC）との連携大学院が発足した。学部・研究科はこのように海洋の生命過程の理解を通して海洋生物資源を考えるという特色ある理念の下、教育研究を展開してきた。この特色をより鮮明化するため、2012年度よりその名称を海洋生命科学研究科に改めたものである。

大学院海洋生命科学研究科海洋生命科学専攻修士および博士後期課程の各専攻分野の各教員の専門分野と研究分野は別表に掲げたとおりである。これらの研究室において行われている研究のめざすところは水産資源生物をはじめとする海洋生物資源を持続的にかつ高度に利用するための基礎的、応用的研究を実施するところにある。21世紀後半に予想される世界人口は100億ともいわれるが、これらの人々に対して食糧の安定供給を保障することが水産学をはじめとする農学の課題である。 海洋をはじめとする地球表面積のおよそ７割を占める水圏をその活躍の場とする水産業には良質のタンパク質である魚介類の持続的な供給という重大な責任と義務とが課せられている。しかしながら、持続可能な魚介類生産を行うには、生物資源管理や生息環境の保全など人類に共通する地球規模のさまざまな困難な課題を解決していかねばならない。

本研究科の人材養成の目的は、水産学諸分野で培われてきた伝統的技術と最新の科学技術を駆使して、海洋生命科学に付託されたこのような課題の本質を国際的視野をもって究明することができる研究者・専門技術者を養成することにある。